

## 当院におけるノーリフトケアチームの立ち上げ

医療法人衆和会 長崎腎病院 長崎腎クリニック  
社会福祉法人照善会 こくら庵

○林 涼子 山口由希子 上谷しのぶ 福本 駿 北田恭平 河津多代 久原拓哉 澤瀬健次 橋口純一郎  
小松利恵子 原田孝司 船越 哲

### 【背景】

2013 年には厚労省から腰痛の予防指針が改訂され、「人力での抱え上げは、原則行わせない」と明示されているにもかかわらず、介護・看護の領域では腰痛保有率は増加の傾向にある。

### 【目的】

当院の職員の腰痛について現況を調査し、これへの対策を目的に全職種で取り組むノーリフトケアチーム立ち上げの試みを行う。

### 【方法・結果】

2019 年 8 月～9 月に当院職員 207 名全員に自己記入のアンケート調査を行った。結果は、男性 58 例女性 149 例のうち、既往も含めると腰痛の保有者は 77.3%と、他の報告(60-65%)を上回る有病率であった。また、腰痛者のうち「腰痛のために休養が必要」、「退職も考えた」と感じた職員は 35.6%であった。腰痛対策の必要性は 45.4%が感じているが、ノーリフトケアを知っているスタッフは全体で 19.8%に留まっている。この結果をふまえ、病院と特養の全ての部署から構成されるノーリフトケアチームを発足した。リーダーは理事長が務め、補佐として病院と特養より 1 名ずつ選出した。月に 1 回の全体会議、外部講師による勉強会などによりチームで情報を共有し、スライディングシートなどの活用を行い、職員自身の姿勢についてチェックシートを用いて相互評価を行うことから開始した。

### 【考察】

腰痛は休職や離職に繋がる深刻な問題と思われるが、ノーリフトケアの認知度は低く、働きやすい環境を作るためチームの今後の活動が期待される。